



ご紹介

レベルソ・トリビュート・エナメル ‘ターナーシリーズ’

手作業でエナメル装飾を施した 4 本のタイムピースが
ヴェネチアの美しさにオマージュを捧げる

概要：

- ・ **ラ・セレニッシマへのオマージュ**：西洋美術史における最も偉大な風景画家の一人である J.M.W. ターナーが捉えたヴェネチアの美しさときらめく光
- ・ **メティエ・ラール™を披露**：細密画、エナメル装飾、パイヨナージュ、手作業によるギョーシェ彫りの技法を見事に融合
- ・ **精巧なエナメル装飾**：奥行きや遠近感、透き通るような光、そして雲が浮かんでいるような効果を再現するために、14 層ものエナメルを重ねるという複雑な工程
- ・ **限定作品**：レベルソ・トリビュート・エナメルの 4 モデルで、各バージョンとも 10 本のみの限定発売

ヴェネチア、ラ・セレニッシマ。その比類なき光と美しさで知られるこの街は、何世紀にもわたって、数多くのアーティストたちにインスピレーションを与えてきました。そのうちの一人が J.M.W. ターナーでした。彼はヴェネチアに、尽きることのないインスピレーションの源を見出したのです。この街を鮮やかに描いた彼の作品は、その独特の雰囲気をつ捉えただけでなく、西洋美術における風景画の流れを形作ることに貢献しました。

今年 9 月にヴェネチアで開催されるホモ・ファベール・ビエンナーレへの参加に合わせ、ジャガー・ルクルトはレベルソ・トリビュート・エナメルの 4 つの新たな限定モデルでこの開催都市に敬意を表します。各時計のケースバックには、J.M.W. ターナーが描いたラ・セレニッシマの絵画のうち 1 点がミニチュアサイズで再現されており、芸術性を表現するキャンバスとしてのレベルソの役割を改めて示しています。

芸術と文化のビジョンを表現

ヨーロッパで始まり、現在では世界へと広がっているホモ・ファベールは、あらゆる形態の職人技や工芸における卓越性を称え、その普及を図るために設立されました。これは、時計づくりに欠かせない高度な専門技術を要する職人技だけでなく、高級時計製造に関連する芸術的技術をも支援するとい



う、ジャガー・ルクルトの取り組みと密接に結びついています。ジャガー・ルクルトの芸術と文化に対するビジョンを体現する新作レベルソ・トリビュート・エナメル‘ターナーシリーズ’は、この共通の使命にオマージュを捧げるとともに、マニファクチュールのメティエ・ラールTM工房で育まれた才能と技術を余すところなく披露しています。

現代美術の先駆者、ターナー：1775 年にロンドンで誕生したジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナーは、西洋美術史において最も影響力のある画家の一人として広く認められています。彼は風景画家として最もよく知られていますが、その作品には、産業化、劇的な社会変化、政治的・経済的激動など、彼が暮らしていた急速に変化する世界のさまざまな側面が描かれていました。彼は幼い頃から非凡な才能を示し、初期の作品は当時の主流であった写実主義のスタイルを踏襲していました。しかし、従来の慣習を打ち破り、やがてはるかに表現力豊かな画風を確立しました。大胆な筆致を（時には親指やパレットナイフも）駆使して、躍動感あふれる構図を生み出したのです。色彩と光を単に被写体を表現するためだけでなく、感情を呼び起こすためにも用いることで、風景画のあり方を一変させ、数十年後に現れる芸術的展開を先取りしました。現代美術の先駆者として、19 世紀末の印象派と、20 世紀の抽象的表現主義の両方に多大な影響を与えました。1851 年の死去以来、彼の芸術的遺産は、何世代ものアーティストたちに影響を与え続けています。

ターナーが絶えず魅了され続けた街、ヴェネチア：ターナーは、ヴェネチアという概念そのものに強い興味を抱き、シェイクスピアやバイロン卿の作品によってその想像力はさらにかき立てられました。1819 年、1833 年、1840 年の 3 回ヴェネチアを訪れており、初めて訪問した時にはすでに 44 歳で、アーティストとしては円熟味を帯びていました。訪れるのは決まって晩夏の頃でした。この時期は、湿気によって運河は柔らかな霧に包まれ、光によって建物はラグーンの上に浮かび上がっているように見えます。ターナーは生前、ヴェネチアを題材にした絵画を 25 点しか展示しなかったものの、その制作数は驚くほど多く、3 回の訪問の間に、4 週間足らずで約 150 点の水彩画と、900 点もの素描を制作しました。ヴェネチアを題材にした油絵は、その後、彼がロンドンのアトリエに戻ってから制作されたものです。

精巧なクラフツマンシップがメティエ・ラールTMを称える

エナメルでターナーの光を表現：新しいレベルソ・トリビュート・エナメルは、エナメルの細密画とパイヨンエナメル装飾の技法を用いたケースバックに、ギョーシェ彫りとエナメル装飾を施したダイヤルを組み合わせたタイムピースです。レベルソの回転式ケースは、芸術的な装飾を施すのに適しており、ジャガー・ルクルトは、何も描かれていないメタル製ケースバックをキャンバスとして活用し、その上でエナメル職人が、著名な芸術作品を極めて精巧に再現した一連のミニチュア作品を生み出しています。ターナーの絵画が放つ、きらめくような美しさを再現するため、レベルソ・トリビュート・エナメルの各モデルには、約 80 時間もの作業が必要です。



彼の作品の形式はそれぞれ異なっているため、構図の本質を捉えつつ、レベルソケースの縦向きレイアウトに収まるよう、各風景画はトリミングされています。どの時計についても、数ある課題の第一は、最大で 68×91cm もある原画を、細部を損なうことなく、文字通り切手ほどの大きさである 2cm²にまで小型化することでした。

同様に重要だったのは、光の幽玄な雰囲気や水面に映し出すきらめきを捉えること、そしてターナーの原画を特徴づける、遠近法の繊細な相互作用を再現することでした。雲が作り出す「浮き上がる」ような効果を実現するには、エナメル職人が複数のエナメル層にまたがって作業を行う必要があります。これは複雑な技法であり、まずエナメル職人がオリジナルの細密画の一部として雲を描き、その後、その部分に半透明のエナメルを 2 層塗り重ねて焼成します。次に、これらの半透明の層の上に雲の絵を描き直し、さらに表面全体に半透明のエナメルを 2 層塗り重ねます。光の透き通った効果を際立たせるため、エナメル職人は、水を表現した部分にパイオナーージュという技法を用いて、ベースとなるエナメルの上に銀箔を貼り付けた後、半透明カラーのエナメルで絵を描き始めます。

望ましい効果を得るために、作品ごとにエナメルを 14 層（ベースの 3 層、絵画部分の 4 層、半透明な淡い色の 7 層）重ね、各層ごとに 800° C で焼成を行います。各絵にさりげなく施された、金箔のパイオンによるシークレットサインは、その作品を制作したエナメル職人を示しています。

ギョーシェ彫りとエナメルの対話：色鮮やかなダイヤルは、半透明のグラン・フー・エナメルの下に手作業で丁寧に施されたギョーシェ彫りで彩られており、その模様や色は、ケースバックに描かれた細密画に合わせて選ばれています。

手首を動かすたびに光を捉える、この精巧なギョーシェ彫りは、手動のロゼット模様旋盤を用いて手作業で施されており、最大 1,080 回の旋盤加工を要します。ギョーシェ彫りが完成した後、各ダイヤルには、さらに 8～9 時間のエナメル装飾が必要で、最大 5 層のエナメルを施し、800℃で 6～7 回焼成します。最後の難題は、ファセット加工のインデックスを完璧に取り付けること（無傷のエナメルの表面にひび割れを生じさせることなく小さな穴を開ける）と、レールウェイミニッツトラックの転写を行うことです。ファセット加工を施したアプライドアワーマーカーとドーフィン針というシンプルさは、レベルソ・トリビュートの全モデルで見られる共通のデザインコードであり、装飾の美しさを最大限に引き立てています。



ヴェネチアの光：印象的な 4 作品をミニチュアで再現

ターナーがヴェネチアで制作した数々の作品は細部まで精緻に描かれていますが、その多くはヴェネチアという街そのものを描写するというよりは、光、水、空といった自然が見せる表情が、ヴェネチアを背景にどのように変化していくかを探求するものでした。ラ・セレンニシマを描いた魅力的で趣のある彼の絵画は、この街の壮大さだけでなく、その儚さや色あせていく栄光をも捉えており、その美しさの裏に物悲しさが漂っています。彼は、光、空気、時間の儚い変化を、まるで映画のワンシーンように表現しており、鑑賞する人は単に絵を眺めるだけでなく、五感を通じてそれを体験することになります。



ヴェネチア、ドガーナ&サン・ジョルジョ・マッジョーレ：ホモ・ファベール・ビエンナーレの会場として選ばれたサン・ジョルジョ・マッジョーレ島は、サン・マルコ広場のラグーンを挟んで真向かいに位置しています。1834 年に制作されたターナーのこの絵画では、光、色彩、反射が強調されており、島と同じ名前の教会の真っ白なファサードが構図の要となり、列をなす建物が霞んだ遠くへと消えていく様子が描かれています。エナメルの下に挟み込んだ銀のパイオンは、ラグーンの質感を豊かにし、水面にひととき美しい輝きをもたらし、刻々と変化する水面の反射を一層際立たせています。商人たちの帆船、食料を積んだ小船、運河を渡る乗客を運ぶゴンドラといったヴェネチアの活気あふれる日常が、ほとんど波立たないラグーンの水面と対照をなしています。水の緑がかった色合いが、新しいギョーシェ彫りである「ソレイユ・クロワゼ」で彩られたダイヤルにも反映されており、豊かな光沢を放つエナメルの層の下に、繊細な質感を醸し出しています。このギョーシェ彫りは、非常に細かく彫り込まれた 180 本の線で構成されており、各線はロゼット模様旋盤による 6 回の連続加工を経て、合計 1,080 回の加工が施されています。



ヴェネチア、サンタ・マリア・デッラ・サルレーテ聖堂の玄関ポーチより：霞んだ光がこの景色に驚くほどの奥行き感をもたらしており、建物の基礎部分が水面に映る自身の姿と溶け合っているかのように見えると同時に、その建築ディテールも、光が醸し出す雰囲気によって一層引き立てられています。エナメルの下に繊細に施された銀のパイオンが水の質感を際立たせ、ターナーが思い描いたヴェネチアを特徴づける、繊細な反射ときらめく輝きを見事に捉えています。1835 年に描かれたこの作品は、ターナーが水彩画の技法を油絵に取り入れたことで、その作風がどのように進化していったかをはっきりと示しています。この革新的な試みは伝統主義者たちから非難されたものの、風景画の分野に革命をもたらすこととなりました。この構図は、ターナーがヴェネチアを初めて訪れた際に鉛筆で描いたスケッチに基づいており、1833 年の 2 度目の訪問後にさらに発展させた習作を反映しています。水の緑がかった色合いは、グラン・フー・エナメルのダイヤルにも反映されています。このダイヤルでは、ライスグレイン模様のギョーシェ彫りが、手首を動かすたびに絶えず変化す



る光と影の効果を生み出し、ターナーが描いたヴェネチアのきらめく雰囲気を彷彿とさせます。この縦方向に施されたバーリーコーン模様のギョーシェ彫りは、70本の線を精密に彫り込むことで実現されており、各線はロゼット模様旋盤による6回の連続加工を必要とし、合計420回の加工が施されています。



ヴェネチアのため息の橋、ドゥカーレ宮殿&税関：18世紀の偉大なヴェネチアの画家ジョヴァンニ・アントニオ・カナレットにオマージュを捧げたこの作品は、ターナーが油彩で描いた最初のヴェネチアの風景画で、彼がこの街を初めて訪れてから14年後に完成させたものです。この切り抜きには見られませんが、原画では、構図の左端にイーゼルの前に座るカナレットの姿が描かれています。晩夏の霞んだ空気によって反射がぼやける中、建物はラグーンと空の間に浮かんでいるかのように見えます。

ドゥカーレ宮殿のバラのようなサンゴ色が、水の緑や空の鮮やかなセルリアンブルーと美しいコントラストを成しています。ラグーンの繊細な輝きは、エナメルの下に挟み込まれた繊細なシルバーのパイヨンによってさらに引き立てられ、水面に驚くべき質感を与えつつ、光との輝きに満ちた相互作用を一層際立たせています。澄み渡る青空がダイヤルにも映し出されており、ここで、ロゼット模様旋盤による6回の連続加工で非常に細かく彫り込まれた46本の線で構成された籠編み模様のギョーシェ彫りの上に、半透明のブルーのグラン・フー・エナメルが施されており、光を受けると、きらめくような効果を生み出します。

ヴェネチア、ため息の橋。1840年に描かれたこのヴェネチアの風景画において、ターナーは、この街の美しさと衰退の両方を捉え、暗い前景と、建物に反射する輝く光とを対比させています。その効果は、エナメルの下に挟み込まれた銀のパイヨンによってさらに引き立てられ、水面に独特の質感をもたらすと同時に、光が水面を揺らめきながら横切るときに刻々と変化する光の反射を映し出します。彼は人物の姿を通じて、当時の社会や経済における重大な変化に対する懸念を表現しており、この絵画を展示した際には、ヴェネチア共和国の没落に深く心を動かされたバイロンの作品を改作した二行の詩、すなわち「私は橋の上に立っていた。その両側には、宮殿と牢獄があった」という詩を添えました。青空にほのかに漂うラベンダーの色合いが、グラン・フー・エナメルのダイヤルにも引き継がれており、手作業で施された波模様のギョーシェ彫りは、ヴェネチアの運河に揺らめく光の反射を彷彿とさせます。水平方向に施された幅広で深みのあるこの波模様のギョーシェ彫りは、41本の線を精密に彫り込むことで実現されており、各線は9回の連続加工を必要とし、合計で369回の加工が施されています。



時代を超越したムーブメント、キャリバー822：時刻のみを表示するレベルソ・トリビュートの他のモデルと同様、レベルソ・トリビュート・エナメル‘ターナーシリーズ’の時計にも、ジャガー・ルクルトがレベルソ専用に開発し、20年以上にわたってこのコレクションの礎となってきた手巻き



キャリバー822が搭載されています。長方形のケースにぴったりとフィットする形状で、厚さは3mm未満に抑えられており、レベルソケースのスリムな輪郭と、手首への抜群の着け心地を実現しています。42時間のパワーリザーブと21,600振動/時（3Hz）の振動数を誇るキャリバー822は、確かな精度を実現するとともに、高級時計製造の技術と、ギョーシェ彫り、エナメル装飾、パイヨナージュ、細密画といった装飾工芸を見事に融合させています。

各モデル10本限定で生産されるレベルソ・トリビュート・エナメル「ターナーシリーズ」は、ホモ・ファベール・ビエンナーレの開催地であるこの街に敬意を表しています。

技術仕様

レベルソ・トリビュート・エナメル「ターナーシリーズ」 - ヴェネチア、ドガーナ&サン・ジョルジョ・マッジョーレ

原画：1834年、キャンバスに油彩、91.5×122cm（ワシントン・ナショナル・ギャラリー）

ケース：18K ホワイトゴールド

サイズ：45.6×27.4mm、厚さ 8.51mm

キャリバー：ジャガー・ルクルト製手巻きキャリバー822

機能：時、分

パワーリザーブ：42時間

表ダイヤル：手作業による「ソレイユ・クロワゼ」のギョーシェ彫り、グラン・フー・エナメル

ケースバック：細密画グラン・フー・エナメル

防水性：3気圧

ストラップ：ブラックアリゲーター

リファレンス：Q39334W1

レベルソ・トリビュート・エナメル「ターナーシリーズ」 - ヴェネチア、サンタ・マリア・デッラ・サルデーテ聖堂の玄関ポーチより

原画：1835年、キャンバスに油彩、91.4×122.2cm（ニューヨーク・メトロポリタン美術館）

ケース：18K ホワイトゴールド

サイズ：45.6×27.4mm、厚さ 8.51mm

キャリバー：ジャガー・ルクルト製手巻きキャリバー822

機能：時、分

パワーリザーブ：42時間

表ダイヤル：手作業によるライスグレイン模様のギョーシェ彫り、グラン・フー・エナメル

ケースバック：細密画グラン・フー・エナメル

防水性：3気圧

ストラップ：ブラックアリゲーター

リファレンス：Q39334W2



レベルソ・トリビュート・エナメル‘ターナーシリーズ’ - ため息の橋、ドゥカーレ宮殿&税関

原画：1833 年、マホガニー板に油彩、51.1×81.6cm（テート・ブリテン所蔵）

ケース：18K ホワイトゴールド

サイズ：45.6×27.4mm、厚さ 8.51mm

キャリバー：ジャガー・ルクルト製手巻きキャリバー822

機能：時、分

パワーリザーブ：42 時間

表ダイヤル：手作業によるバーリーコーン模様のギョーシェ彫り、グラン・フー・エナメル

ケースバック：細密画グラン・フー・エナメル

防水性：3 気圧

ストラップ：ブラックアリゲーター

リファレンス：Q39334W3

レベルソ・トリビュート・エナメル‘ターナーシリーズ’ - ヴェネチア、ため息の橋。

原画：1840 年、キャンバスに油彩、68.6×91.4mm（テート・ブリテン所蔵）

ケース：18K ホワイトゴールド

サイズ：45.6×27.4mm、厚さ 8.51mm

キャリバー：ジャガー・ルクルト製手巻きキャリバー822

機能：時、分

パワーリザーブ：42 時間

表ダイヤル：手作業による波模様のギョーシェ彫り、グラン・フー・エナメル

ケースバック：細密画グラン・フー・エナメル

防水性：3 気圧

ストラップ：ブラックアリゲーター

リファレンス：Q39334W4

レベルソについて

1931 年、ジャガー・ルクルトは、20 世紀のデザインのクラシックとなるタイムピース、レベルソを発表しました。ポロの激しい試合にも耐えられるように作られており、すっきりとしたアールデコ調のラインと特徴的な反転式ケースを備えたこの時計は、瞬時に識別することができます。誕生から 90 年間、レベルソはアイデンティティに妥協することなく自らの存在を常に変化させてきました。50 種類以上のキャリバーが搭載され、何も描かれていない金属の裏面はクリエイティブな表現のためのキャンバスとなり、エナメル、エングレービング、ジューストーンなどで装飾が施されました。今年、95 周年を迎えたレベルソは、変わることなく、その誕生にインスピレーションを与えた現代の精神を象徴し続けています。



ホモ・ファベール・ビエンナーレについて

ホモ・ファベール・ビエンナーレは、ヴェネチアで開催される現代クラフツマンシップの国際的な祭典で、ミケランジェロ財団がキュレーションを行っています。ホモ・ファベールの看板プロジェクトでは、ジョルジョ・チーニ財団の壮麗な会場を舞台に、数百名に及ぶ名匠、新進気鋭の職人やデザイナーたちの作品が一堂に会しています。サン・ジョルジョ・マッジョーレ島のさらに先にあるホモ・ファベール・イン・チッタは、ヴェネチア各地のクラフツマンシップを巡る旅へと来場者を誘います。

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニュファクチュール工房™は、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年以上にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。82 の工房、108 の職人技、235 の技法（うち 69 は独自の技法）を結集したマニュファクチュール工房™は、その技巧に、デザインの美しさと独特で控え目な洗練とを組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。

jaeger-lecoultre.com